

# 令和3年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：釧路地区
- 2 事例報告学校名：鶴居村立幌呂小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 水澤 好克
- 4 キーワード：特色ある学校経営…地域連携・ふるさと学習

## 1 はじめに

本校が所在する鶴居村は、道東釧路管内のほぼ中央に位置し、特別天然記念物『タンチョウ』の生息繁殖地として有名である。鶴居村では平成30年度の条例により、「タンチョウと共生するむらづくり推進会議」を設置し、地域とタンチョウとの共生の在り方を検討している。

本校は2年前に開校百周年を迎えた歴史ある学校で、今年度の児童数は12名と極小規模校であるが、今年度本校のキャッチフレーズ＝『自分から取り組み、みんなで取り組む子ども。』を合言葉に、少人数の強みを生かし、児童も教職員も一枚岩となった学校経営を展開している。保護者は酪農業従事が全体の約6割を占め、PTA活動はじめ、学校行事にも積極的に参加して非常に協力的である。本校では、保護者や地域の方々との連携を深めながら、長い間取り組んできたタンチョウの給餌活動が、昭和27年の開始以来、次年度で70年目の歴史的な節目を迎える。このことを意識した今年度の給餌活動について紹介する。

## 2 タンチョウ給餌活動の歴史的意義

鶴居村内で一番最初に給餌活動を始めたのが本校である。ということは、鶴居村の活動の歴史が、本校の歴史そのものになる。

活動の始まりは、現在の支幌呂東地区にいたタンチョウが弱っているのを当時の小学生が見付け、学校帰りにえさをあげたのがきっかけである。当時は、タンチョウが何を食べるかよく分からなかったため、家にあったそばの実や豆を与えていたとのことである。

その後、高学年中心に『ツル当番』が作られ、自分たちの家の作物から、タンチョウの好物とされたトウモロコシを持ち寄るようになった。吹雪の日も寒い日も給餌を続けたのは、当時の校長先生の【鶴居村の村名にかけても、ツルを救おう】との思いがあったからである。

昭和27年に始まった『ツル当番』の名称は、昭和39年から『ツルクラブ』に変更し、平成17年からは新たに『タンチョウ隊』となって、現在に至っている。給餌場所は、最初は地域の畑だったが、昭和63年頃から本校校庭にニオを設置したため、変更された。

※【ニオ】とは…タンチョウ給餌場所の目印となるもので、農家の畑等で栽培・収穫したデントコーンの長い茎を、何本も束ね合わせて立てかけて作り、設置したものを示す。冬期間、ニオの周辺に乾燥させたデントコーンの実をまき、タンチョウ飛来の目印となる。

取組日種	月毎の主な活動内容	学年	時数	備考
4月16日	第17代・幌呂小学校タンチョウ隊長を決定 …歴代隊長は氏名札を作成→廊下に掲示	5・6年	朝・帰りの会 …時数なし	校長より任命 状を授与
4月27日	今年度のタンチョウ給餌活動の内容を説明 …活動の様子→写真と感想を書いて振り返る	高学年→ 低学年	全校児童朝会 …時数なし	活動は道徳紙 にまとめる
6月28日	タンチョウえさづくり体験①…5～6校時 ・デントコーン各作業＝種まき→ビニール貼り ・作業の指導…村タンチョウ自然専門員	5・6年	総合学習＝2	植田牧場で最 初に畑を貸す 自転車移動
6月24日	タンチョウえさづくり体験②…5～6校時 ・デントコーン畑の雑草取り作業	5・6年	総合学習＝2	自転車移動
9月27日	タンチョウえさづくり体験③…1～4校時 ・デントコーン各作業＝収穫→皮むき→実干し ・タンチョウ飛来の目印となるニオ設置 ・昨年度収穫＝680本→今年度＝906本	全学年	低学年…生活 科＝4 中・高学年… 総合学習＝4	低学年…植田 牧場、中高学 年…漁業農協 村バス移動
12月3日 の予定	鶴居村タンチョウ越冬分布一斉調査…1校時 ・調査場所＝中幌呂高台（約20分圏内）	3・4年	総合学習＝1	徒歩移動
12月6日 の予定	タンチョウえさづくり体験④…中休み～4校時 ・干していたデントコーンの実をほぐす作業 ・昨年度ほぐした実の合計…約67kg	全学年	低…生活＝2 中・高…総合 ＝2	実ほぐし機械 も使用可能 場所…体育館
12月上旬 ～3月中旬	タンチョウ隊による翌校日の給餌活動… ・曜日毎に割り振り3班＝各4名による給餌 ・バケツにデントコーンの実を入れ、ニオまで 移動→全員がニオ周辺に均等に実をまく	全学年の 総割り班	朝の登校時… 時数なし	冬休み中、児童が 遅刻し、物の 給餌…朝会が 遅れて行う
1月下旬～ 2月下旬	タンチョウ給餌活動のまとめ発表会…学年毎 ・地域参観日が保護者参観日での発表	全学年	低…生活科1 中…総合1	発表会場… 1階ホール
第17代・タンチョウ隊長（6年生から選出）	← 高学年担任・教務部地域連携担当			
5・6年…タンチョウ隊として各活動の中心	鶴居村各地域関係機関との連携・協力			
8・4年…えさづくり体験・分布調査・給餌	◎タンチョウ自然専門員（鶴居村教育委員会） ○植田牧場（幌呂地区）…保護者・地帯住民 ○酪農農協（幌呂地区）…保護者・地帯住民			
1・2年…えさづくり体験・給餌・発表会				

### 3 児童が主体的に取り組むタンチョウ給餌活動

今年度は活動への取組を工夫し、4月の朝会で、高学年が低・中学年に給餌活動を説明し、1年間の活動の見通しをもたせた。また、児童が各活動を振り返る場面では、模造紙に取組の流れが分かるよう写真を貼り、児童の感想票も貼って掲示した。これらの工夫から、児童が給餌活動をより自分事に考え、主体的に取り組むようになった。



#### ① デントコーン種まき・ビニール貼り作業

畑を耕して種をまいた後、上にビニールシートをかけた。

#### ② デントコーン収穫作業

デントコーンの茎から房を取り、906本も収穫できた。

#### ③ グラウンドへのニオ設置作業

デントコーンの茎を数本単位で束ね、土台の支柱に固定。

#### ④ デントコーン皮むき・実干し作業

皮をむいてしばり、竹竿につるし、外物置の中に干した。

#### ⑤ デントコーンの実をほぐす作業

機械等も活用して実をほぐし、その実の合計を計量する。

#### ⑥ タンチョウ隊による登校日の給餌活動

登校時に縦割り3班＝各4名で行う。デントコーンの実をバケツに入れ、全員でニオ周辺に実をまく。



### 4 給餌活動をととしての児童の様子・思い

より主体的な活動となり、児童に次の変容が見られた。

- ① ニオの設置後、周辺にタンチョウは飛来していないが、ニオの様子を放課後等に見に行く児童が数名現れた。
- ② 歴代タンチョウ隊長の氏名札を見て、「いつかは自分の名前も……」などというような憧れを抱く児童も現れた。
- ③ デントコーンの皮のむき方について中学年が、休み時間などに、丁寧に低学年に教えている姿が見られた。各活動終了後、児童が書いた感想を紹介する。(一部抜粋)
- ④ 「大切なデントコーンがすぐとれたので、タンチョウによるこんでおいしく食べてほしいなと思いました。」
- ⑤ 「ざっ草をぬき、デントコーンをぬかないようにするのが大変だったけど、楽しくがんばれてよかったです。」



### 5 おわりに (今後の方向性)

祖父母の代から続く給餌活動が、孫の代まで引き継がれて70年という、歴史の重さを改めて痛感している。開校百周年事業により培った地域との連携をさらに深め、伝統ある給餌活動をさらに推進したい。また、『地域とともにある学校づくり』を大切に、今後も地域の特色を生かした教育活動を展開し、【ふるさと幌呂を愛する心をもつ】児童の育成に取り組む覚悟である。